

家庭・地域等と連携・協働を深めた学校づくり

小中一貫型小学校・中学校 併設型小・中学校

東国分爽風学園の挑戦



市川市教育委員会

学校教育部 指導課

課長 富永 香羊子

I - 1 現状認識

- 「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」を基本理念として、学びと育ちの連続性を大切にした教育を推進
- 平成27年度に、義務教育9年間の教育を一貫して行う小中一貫校として開校した「塩浜学園」（H28年度より義務教育学校）では、教育課程や学校運営の在り方に関する研究を通して、小中一貫教育の教育効果が明らかになった
- 令和元年度には、『市川市立義務教育学校の設置に関する方針』を策定し、小中一貫教育の実施を目的とする義務教育学校の設置を市内全体で進める



I - 2 課題分析・アプローチの視点

- 義務教育学校および小中一貫型小学校・中学校（併設型小中学校）では、小中一貫教育の軸となる独自教科の新設や、学年および小中学校段階の指導内容の入れ替えや移行等、教育課程の特例を市の判断で定めることが出来るため、子どもの発達段階に即したカリキュラム編成を柔軟に行うことができる
 - (1) 小中一貫教育の推進への指導・支援の充実
 - (2) 小中一貫教育を推進する組織等の整備
 - (3) 小中一貫教育を推進する教育環境の充実



Ⅱ 研究の概要

- 小中一貫型小学校・中学校は、組織上独立した小学校および中学校が義務教育学校に準じた形で一貫した教育を行える学校である
- 曾谷小学校・稲越小学校・東国分中学校の3校は、現在の学校の「名前・場所・校舎」をかえずに、小中一貫型小学校・中学校とした
- 教育課程は、義務教育学校に準じて、9年間の教育課程の開発や新たな教科等の設置を行い、令和3年4月から6年3月までの3年間にわたってその効果を図ることを研究の目的とした。



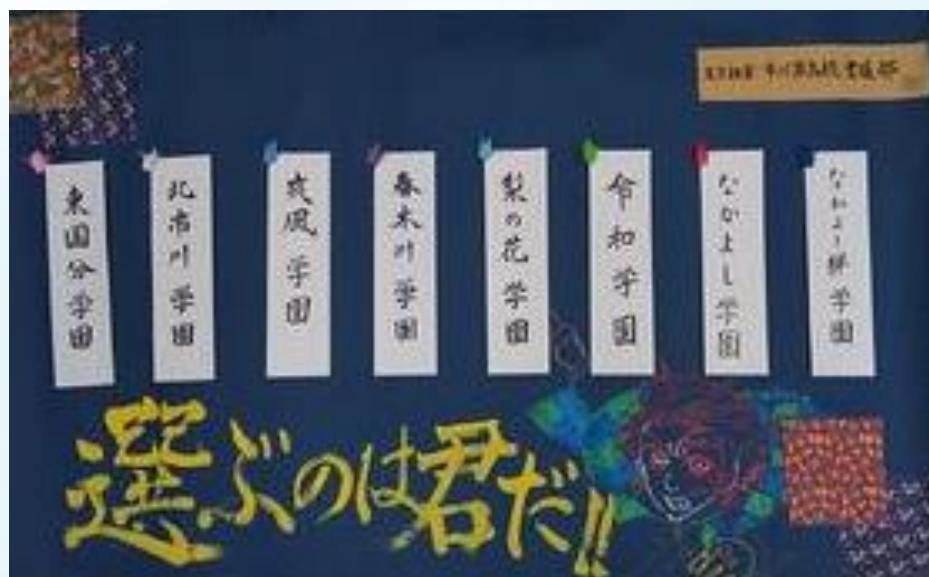
Ⅱ - 1 義務教育学校検討委員会

- 令和2年1月から、義務教育学校設置に関する検討委員会が行われた
- 参加者は、委員長（学識経験者）および3校の学校運営協議会会長、保護者代表、地域関係者、学校管理職の計19人で構成されており、教育委員会主導のもと、様々な課題について、それぞれの立場から意見を述べ、より良い義務教育学校の在り方について検討を行っている



Ⅱ - 2 通称名「東国分爽風学園」に決定

- 併設型でスタートする小中一貫校として、3校を合わせた通称名を決めることとした
- 通称名は、公募で行い、3校の児童生徒および、保護者・教職員だけでなく、地域住民からも幅広く意見を集めた
- 多くの案が寄せられたため検討委員会内で吟味した上で、3校の児童生徒による投票を行い東国分爽風学園とした



Ⅱ - 3 東国分爽風学園プロジェクト会議



東国分爽風学園グランドデザイン（案）

● 学園教育目標

『笑顔をつなぐ 未来へつなぐ 東国分爽風学園の学び』

● 「東国分爽風学園の学び」によりめざす将来像

《めざす子ども像》

- 主体的に考え、学び、伸びる。
- 心豊かで、幅広い年代と協調できる。
- ルールやマナーを守り、基本的な生活習慣を身につける。
- 心身ともに健康。

《めざす教職員像》

- 小中一貫教育の理解と研修に務める。
- 学園全体のチームワークを大切にする。
- 保護者・地域と積極的に連携・協働する。
- 心身ともに健康。

《めざす学園像》

- 系統性・連続性を重視した小中一貫教育の良さを、児童生徒・教職員・保護者・地域住民が実感できる学園。

● 「東国分爽風学園の学び」の4つの柱

生徒指導

- 子どもの9年間の成長を見据えた教育相談の充実
- 多様性の尊重
- 各分掌を組織化した機能的な連携
- 基本的な生活習慣の確立

学校・地域 交流連携活動

- 教育の接続化
幼小中高・小小の連携、交流
- コミュニティ・スクールの推進

学力向上

- 新しい教科の設定（SDGs）
- エバーサルデザインを取り入れた学習環境及び学習規律の統一
- 小中一貫型カリキュラム・マネジメントによる学力向上
- 教科担任制、ICT活用による学びの個別最適化の実現

特別支援教育

- 個に応じた支援を行うための特別支援教育の充実
- 特別支援学級、須和田の丘支援学校等との心の交流

9年間でつなぐ小中一貫教育を実践！



Ⅲ - 1 成 果

(1) ICTを活用したオンライン会議

(2) プロジェクトへのサポート体制の充実

(3) 教科担任制および部活動

(4) 県立高等学校との交流



Ⅲ - 2 課 題

- (1) 学区整備：市川市小学校中学校及び義務教育学校 通学区域の見直し
- (2) 物理的な移動距離
- (3) 行事および授業時間の調整：中学校の先生の授業
- (4) 授業形態の工夫
 - ・新たな教科（ふるさと探究科）

東国分爽風学園特別教科 活動内容一覧（目標と推進の視点・各期の系統性等のかかわり）

目標	(1) 探究的な学習の過程において、SDGsの目標実現に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関する概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。 (2) SDGsの目標の中から、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 (3) 探究的な学習に主体的・協動的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養うことができる。		
	A	B	C
推進の視点	自己の生き方を考える	地域への理解と愛着を深める	科学的理解を深める
	持続可能な社会をめざす		



IV 提 言

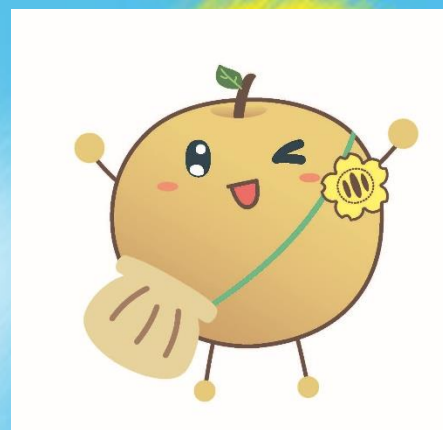
- 本研究は、本市初のモデルケースであるため、3年後にどのような結論を導き出すのか、校長として常にゴールを意識して行うことが重要
- 物理的な学校の場所だけでなく、児童生徒の思いや保護者、地域住民の思い、そして教職員の思いを校長が真摯に受け止め、この地区の未来の学校の在り方を中長期的な視点で考えることが大切
- 東国分爽風学園を巣立つ児童生徒が、地域を愛し地域の力となって社会へ踏み出せるよう、教育委員会や関係機関と連携しながら、3年間のカリキュラムを検討していく



令和4年度の状況

- 令和4年5月30日
「ふるさと探究科学習計画作成」に関する研修会
- 令和4年6月13日
第1回「ふるさと探究科」専門部会
- 令和4年7月6日
曾谷小学校と稲越小学校の代表委員会児童の顔合わせ
- 東国分中学校への部活動体験 11月、12月頃
- 専門部会
学力向上・児童生徒会・特別支援教育・生徒指導





曾谷小学校50周年記念
イメージキャラクター
ソーヤちゃん
(市川の梨と曾谷貝塚)

ご清聴ありがとうございました



いつも新しい流れがある 市川